

野焼き、花火、だるま、餅つきー  
市内各地で夏を彩るイベント

踊り手と手作りの山車が地元商店街を練り歩く。7月29日の「千厩夏まつり」を皮切りに、市内各地で恒例のイベントが開かれ、市民や観光客が地域色豊かな行事を楽しみました。

「むろね夏祭り」は7月30日、室根支所駐車場で行われ、ミニ四駆大会、縄跳び大会などに幅広い年代が参加しました。

「一関夏まつり」は8月4日から6日の3日間、大町などで行われ、磐井川川開き花火大会、二代目時の太鼓大巡行、くるくる踊りパレードなど華やかなイベントが観客を魅了しました。

「花泉夏まつり」は5、6の両日、花泉支所駐車場で開かれ、「日本一のもつき大会」では参加者が餅つきに挑戦しました。

「縄文の炎・藤沢野焼祭2017」は12、13の両日、藤沢町の藤沢運動広場「特設縄文村」で開催。県内外から寄せられた759点の土器を11基の窯で焼き上げました。

「大原だるま祭り」は15日、大東町の大原商店街で行われ、新成人39人が元気な掛け声と共に大だるまを担いで夜の商店街を走り回りました。

「摺沢水晶あんどん祭り」は13日から15日の3日間、大東町の摺沢商店街で開催。13日は盆の迎え火に合わせ、小僧姿の児童26人がちょうちんを手に行進しました。

夏イベントのフィナーレを飾る「かわさき夏祭り花火大会」は16日、川崎町薄衣の北上大橋付近で行われ、2尺玉を含む1万発の花火が夏の夜空に大輪の花を咲かせました。



1\_藤沢野焼祭 / 2\_一関夏まつり / 3\_花泉夏まつり大会 / 4\_かわさき夏祭り花火大会 / 5\_千厩夏まつり / 6\_むろね夏まつり / 7\_大原だるま祭り / 8\_摺沢水晶あんどん祭り

砂鉄川に親しみ、地域を盛り上げる  
大東町大原で「川床まつり」初開催

「砂鉄川川床まつり」(大原商業会、一関商工会議所、市主催)は7月23日、大東町大原の砂鉄川西口公園で開催されました。この催しは、砂鉄川に親しみながら地域を盛り上げようと大原商業会などが初めて企画。小雨が降るあいにくの天候にもかかわらず、多くの家族連れがステージイベント、アユのつかみ取りや屋台などで楽しい時間を過ごしました。

大原中2年の村上菜穂さんは「焼きたてのアユがおいしかった。こんな楽しいイベントがもっと増えて、大原がにぎやかなまちになってほしい」と話してくれました。



川と触れ合う多彩なイベント  
北上川を肌で感じる「川っ子祭り」

「第6回川っ子まつり」(北上川サポート協会主催)は7月30日、川崎防災センター周辺で行われました。今回のテーマは「川とのふれあい・人との交流」。約200人の参加者がカヌー、水上バイク体験、木造船「長生丸」での遊覧や人間カールリング「タライでトライ!」などを楽しみました。陸では「水辺のマルシェ」も開催。多くの買い物客でにぎわいました。

「タライでトライ!」に参加した川崎小3年の山形幸愛さんは、「ドボン(距離オーバー)だったけど楽しかった」と満ち足りた様子。訪れた人たちは、川崎でしか体験できない夏のひとときを堪能していました。

花泉で30年続く交流の絆  
東京の小学生が金沢小を訪問

金沢小と東京都新宿区いしがやの市谷小との「夏季市谷交流事業」(同実行委主催)は7月22日から24日の3日間、金沢小で行われました。両校の交流は1987年、餅文化に興味をもった市谷小の先生が花泉町を訪れたことがきっかけ。翌年から本格的な交流が始まり、今年で30年目を迎えました。市谷小の4、5年生の児童49人が来訪し、交流ゲーム、キャンプファイアや餅つきなどを通して絆を深めました。

金沢小5年の山谷采陽さんは「一関は餅の種類が豊富。市谷小のみんなにはいろいろな味の餅を食べてほしい」と話し、積極的に友好を深めていました。



絶景の中で涼を感じる  
狛鼻溪で夏休みの思い出づくり

「親子で作る狛鼻溪の夏休み」(げいび観光センター主催)は7月30日、東山町の狛鼻溪で行われました。夏休みの思い出作りや学校の自由工作に生かしてもらおうと4年前から開催している同イベント。当日は県内外から参加した約140人の親子連れが川遊び、竹細工や流しそうめんなど夏ならではの催しを満喫しました。

子供会の行事として奥州市江刺区から参加した及川春香さん(田原小6年)は「川辺が涼しかった。魚もたくさんいて面白かったです」とにっこり。狛鼻溪の絶景を見ながら涼を感じていました。

高齢者への理解と思いやりの心を育む  
「ケアチャレンジ」で体の衰えを疑似体験

「ケアチャレンジ2017」(ふじさわ地域包括ケア研究会主催)は8月1日、藤沢町の老健ふじさわで開催されました。市内の中高生15人が認知症に関する講義、高齢者の疑似体験や高齢者の食事体験を通して、高齢者への理解と思いやりの心を育みました。

高齢者の疑似体験では、生徒が特殊な眼鏡や手足への重りを装着し、加齢による視力や筋力の衰えを体感。千厩高2年の熊谷佳奈枝さんは「目が見えづらいと、段差も分からない。高齢者には声をかけてあげることが大切だと感じました」と語ってくれました。



東山で恒例の「東関部屋フェスティバル」  
夏合宿中の力士と触れ合い楽しむ

「大相撲東関部屋フェスティバル」(大相撲東関部屋東山町後援会主催)は8月11日、松川市民センターで行われ、地域住民約300人が夏合宿中の力士との交流を楽しみました。

参加者は東関部屋の朝稽古を見学。豪快な張り手や気迫あふれるぶつかり稽古に、歓声を上げていました。力士との力比べでは、綱引きや取組などで力士の力強さを体感。そのほか、餅まきや特製ちゃんこの振る舞いも行われ、力士との触れ合いを満喫しました。

千厩小4年の小林朔矢君は「力士を見たのは初めて。大きさとパワーにびっくりしました」と目を輝かせていました。